

大阪・関西万博 夢洲でメタンガス爆発

1 党議員団「子どもの動員止めよ」と申し入れ

岸田首相と財界、大阪の維新府政・市政などがすすめる大阪・関西万博が行き詰まり、破綻に直面しています。建設費も当初予算の2倍に膨れ上がり、「3.3兆円」の経済効果も説得力はありません。いのちを危険にさらすガス爆発事故が起きるなど、「いのち輝く」という万博テーマに最も不適切な場所です。開幕予定1年前でも7割が「関心ない」（「読売」）と答え、開催反対が45%、賛成が47%と拮抗（「朝日」）。党議員団は、児童生徒の動員やめるように市長と教育長に申し入れました。（裏面参照）

Q 爆発事故起き

毎日2つのメタンガス発生で大丈夫？

万博会場の夢洲は、ゴミや汚泥などの処分場で大量の可燃性メタンガスが発生しています。事故の起きた地区（夢洲1区）では約80本のガス抜き管で排出していますが、ガス抜き管だけで昨年夏に毎日2つのメタンガスが発生。危険きわまりないことが爆発事故でハッキリしました。

危険は可燃性ガスだけではなくありません。観光バス駐車場の下には大量のPCBが埋められています猛烈な風と粉塵、熱中症などによる健康への影響が指摘されています。

Q 災害などが起きたらどうなる？

夢洲へ行くルートは2箇所（橋とトンネル）しかなく、地震等で通行不能となると最大で1日22万7000人来場者が帰宅不能になる恐れがあります。2018年9月の台風21号で同じ人工島の関西空港が浸水し、連絡橋にタンカーが衝突し約8000人が孤立。舞洲でも多数のコンテナが吹き飛ばされ、護岸の一部が高潮で倒壊する事態となりました。

ところが、協会が昨年12月にまとめた災害被害想定「防災基本計画(初案)」は「被害想定が甘すぎる」と専門家らが指摘。肝心の「避難計画」はいまだに策定されていません。

Q 夢洲で開催どうして？

夢洲は2016年、当時大阪府知事だった松井一郎氏が「私の私案」として候補地に追加し、ごり押ししてきたものです。同じ夢洲につくるIR・カジノの基板整備を、「国策」である万博に乗じて進めるためです。

しかし、カジノは人の不幸の上に成り立つ悪徳ビジネスです。建築界のノーベル賞・プリツカー賞を受賞した建築家の山本理顕氏も「カジノのための万博になっている」と批判。



Q 学校行事として大量動員大丈夫？

小中校生らを「無料招待」と称して、京都府は25万人（大阪府85万人、兵庫県56万人）を動員しようとしています。観光バスで行くと駐車場から入り口まで低学年の足で30分もかかります。ピーク期に1日1.4万人子どもが来ると想定しながら昼食がとれる団体休憩所は2000人分。日時もパピリオンも選べず開幕前は下見もできません。子ども達の安全が守れず、教育効果も疑わしいものに動員することなど許されません。

万博が不人気でチケットが売れないかというって学校行事として児童・生徒を危険な場所に動員するのはやめるべきです。

Q 経済効果「3.3兆円」本当なの？

国や大阪府などは、万博開催による全国の経済効果は、「3.3兆円」などと言っています。しかし、これは2820万人もの来場者があるという大風呂敷の上に、万博を機に全国で商品・サービスが大量に生産・購入されるという「机上の空論」です。賃金も上がらない政治を続けながら、「万博効果」で暮らしや経済が良くなるはずがありません。

しかも、会場建設費は当初の2倍近い2300億円、運営費は1.4倍の1160億に膨れ上がり、関連インフラ整備費などもあわせると10兆円規模に上ります。

